

1：基本情報

①主催者

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）

②実施場所（エリア）

住所：千代田区神田神保町 3-4-4 ※専修大学 10 号館・隣接する北側区道（特別区道千第 354 号）

実施会場(斜線部分)



©OpenStreetMap contributors

③企画から実施までの活動の流れ（活動に必要な申請書関係含む）

【企画検討】

- 5月上旬：関係者間事前協議（SENDAI-kaffee 他）
- 5月下旬：千代田区キャンパスコンソ運営委員会内での協議（企画検討）

【準備】

- 7月8日：千代田区景観・都市計画課と打合せ【内容：今後の手続き関係】
- 7月下旬～：会場近隣関係先への挨拶・説明（～10月下旬）
- 8月1日：学生プロジェクト 参加学生募集（～8月22日）
- 8月20日：千代田保健所との打合せ【内容：今後の手続き関係】
- 9月3日：神田警察署との打合せ【内容：道路使用許可・一方通行解除申請関係】
- 9月4日：学生プロジェクト第1回ミーティング【内容：オリエンテーション】
- 9月16日：学生プロジェクト第2回ミーティング【内容：企画検討】
- 9月25日～：広報関係原稿、チラシ、ポスター作成（～11月7日）
- 9月26日：千代田区キャンパスコンソ運営委員会（進捗確認）
- 10月1日：学生プロジェクト第3回ミーティング【内容：企画検討】
- 10月10日：千代田区 後援名義使用申請（10月24日付承認）
- 10月中旬～：順次備品発注・購入（～12月5日）
- 10月16日：神田警察署との第2回打合せ【内容：道路使用許可・一方通行解除申請関係】
学生プロジェクト第4回ミーティング【内容：各チーム企画検討・準備】
- 10月21日：千代田区キャンパスコンソ HP での広報開始
- 10月23日：千代田区商工業連合会 後援名義使用申請（10月24日付承認）
- 10月24日：千代田区キャンパスコンソ運営委員会（進捗確認）

- 10月29日 : 神田警察署との第3回打合せ【内容：道路使用許可・一方通行解除申請関係】
学生プロジェクト第5回ミーティング【内容：各チーム企画検討・準備】
- 11月7日 : 神田警察署 道路使用許可申請及び一方通行解除申請（11月10日付許可）
チラシ・ポスター完成
- 11月12日 : 千代田保健所事前相談（行事開催届・行事における臨時出店届）
- 11月13日 : 学生プロジェクト第6回ミーティング【内容：各チーム企画検討・準備】
- 11月17日 : チラシ・ポスター配布・掲示開始、千代田区 X・LINE・Facebook での広報開始
- 11月20日 : 広報千代田掲載
- 11月28日 : 千代田区キャンパスコンソ運営委員会（企画内容・安全対策・人員体制確認）
- 12月1日 : 学生プロジェクト第7回打ち合わせ【内容：最終確認・準備】
- 12月2日 : 千代田保健所 行事開催届及び行事における臨時出店届提出・受付
- 12月5日 : 事前準備

【活動実施】

12月6日 : 活動実施

④活動の内容

人々が立ち止まって新たな街の魅力に気づく場所づくりを千代田区キャンパスコンソの学生が主体となって企画・検討し、以下の複数のイベントを運営・実施した。

- コーヒー無料試飲会（協力：SENDAI-kaffee）
- コーヒーに映るあなただけの一杯（コーヒー診断）
- 飲むだけじゃもったいない。コーヒーが私だけの作品に変身（しおり作り）
- 見つけ出せ！神保町の魅力スポット（キーワードラリー）
- 感想でつながるまちなか読書ひろば（読書エリア）
- ワクワク無料交換会
- ろう石路上アート
- ステップ・るーらー（協力：(株)竹中工務店※）

※当プログラム（ステップ・るーらー）は、令和7年度「ウォーカブルなまちづくりの活動」採択事業である、大和ハウス工業（株）主催「タワー飯田橋通りウォーカブルプロジェクト（道路活用による「井戸端空間」の創出と地域コミュニティの活性化）」に出店しており、大和ハウス工業（39 base 運営チーム）との連携のもと、本事業への出店を竹中工務店に依頼し、実現したものの。

○会場受付



○コーヒー無料試飲会（協力：SENDAI-kaffee）

○会場全景



○コーヒーに映るあなただけの一杯（コーヒー診断）



○飲むだけじゃもったいない。コーヒーが私だけの作品に変身（しおり作り）



○見つけ出せ！神保町の魅力スポット（キーワードラリー）



○感想でつながるまちなか読書ひろば



○ワクワク無料交換会



〇ろう石路上アート



〇ステップ・るーらー（協力：竹中工務店）



2：活動の実施の仕方

① 活動の実施体制

【主催】

千代田区キャンパスコンソーシアム：活動の企画・準備・実施

(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学)

【後援】

千代田区、千代田区商工業連合会

【協力】

SENDAI-kaffee	:	活動の企画・準備・実施、備品の貸出、景品の提供、企画内マップへの掲載、広報の協力
Book House Cafe	:	景品の提供、企画内マップへの掲載、広報の協力
かふえ あたらしくしあ	:	景品の提供、企画内マップへの掲載、広報の協力
Kanda Coffee	:	企画内マップへの掲載、広報の協力
きっさこ	:	企画内マップへの掲載、広報の協力
ミロンガ・ヌオーバ	:	企画内マップへの掲載、広報の協力
竹中工務店	:	当日の企画実施・運営
神保町三丁目町会	:	広報の協力

【人員体制（当日のスタッフ配置）】

大学生（学生プロジェクトメンバー）15人、大学職員15人、協力企業等8人

② 活動の収支状況

【収入合計：24万円】

- ・千代田区活動支援金：24万円

【支出合計：24万円】

- ・消耗品の購入費：17万円
- ・雑役務費他：4万円
- ・什器等のレンタル費用：2万円
- ・広告費：1万円

③ 広報活動の内容

- ・区広報誌（広報千代田）への掲載
- ・近隣町会へのチラシ配布
- ・区立教育機関、区庁舎・出張所、図書館、児童館他へのチラシ配布
- ・区内掲示版でのポスター掲示
- ・千代田区 X・LINE・Facebook での周知
- ・千代田区キャンパスコンソ HP への掲載
- ・千代田区キャンパスコンソ SNS（インスタグラム）での周知
- ・各大学における学内周知（メール・掲示板・チラシ設置等）

<メディア連携>

- ・東京ケーブルネットワーク株式会社による取材・番組放映

<https://youtu.be/UH7un4gFfk>

3：今後の活動の展望

①今回の活動を通じて実現した「地域課題の解決」、「新たな価値の創造」

(1)「区内で学ぶ学生目線による居心地のよい空間の創出」

千代田区キャンパスコンソーシアムでは、中長期計画（第2期）における目標の一つとして、「大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進」を掲げ、その具体的な課題として「地域コミュニティの活性化」に取り組んでいる。本活動は、大学の機能や人的資源を活用し、地域コミュニティの活性化に資する事業を実施することで課題解決を図る取り組みの一環として実施したものである。

来場者を対象に実施したアンケート（回答者 66 名）では、94%が「楽しく過ごせる場所が、大学生の目線で創られていた」と回答しており、区内に立地する大学・短期大学ならではの視点や資源を生かした空間づくりを通じて、地域における新たな価値の創造につなげることができたと考えている。

なお、来場者に実施したアンケートでは、以下のような回答が得られた。

① 「楽しく過ごせる場所が、大学生の目線で創られていた」 【94%】

② 「このイベントに満足」 【97%】

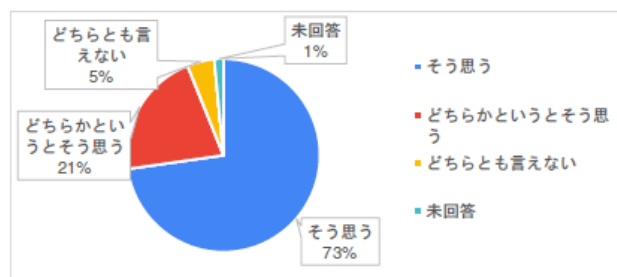
③ 「同じようなイベントをまた開催して欲しい」 【95%】

※①③は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」の合計、②は「満足」「どちらかと言うと満足」の合計。

※①

Q.7 このイベントで、楽しく過ごせる場所が、大学生の目線で創られていたと思いますか？

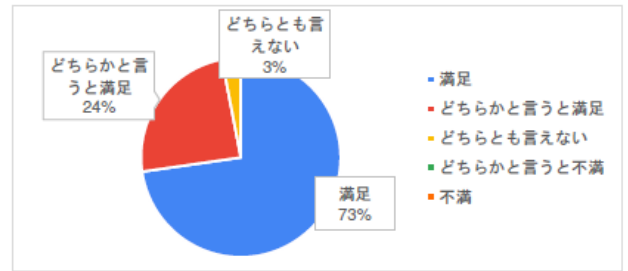
そう思う	48
どちらかと言うとそう思う	14
どちらとも言えない	3
どちらかと言うとそう思わない	0
そう思わない	0
未回答	1
合計	66



※②

Q.8 イベントの満足度は？

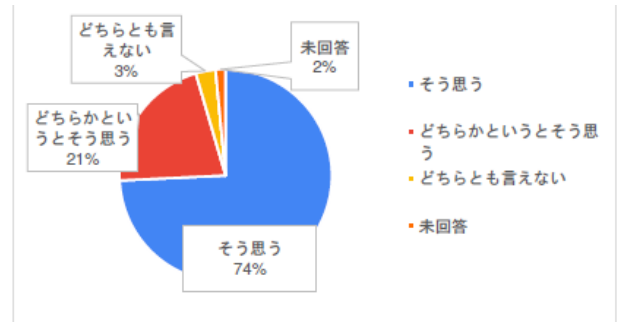
満足	48
どちらかと言うと満足	16
どちらとも言えない	2
どちらかと言うと不満	0
不満	0
合計	66



※③

Q.10 同じようなイベントをまた開催してほしいと思いますか？

そう思う	49
どちらかというと思う	14
どちらとも言えない	2
どちらかと言うとそう思わない	0
そう思わない	0
未回答	1
合計	66



アンケートの自由記述では、イベントの満足度の区分ごとに以下のコメントが得られた。※抜粋転記

《 満足 》

- ・学生さん達との交流が楽しかった。
- ・大学生が真剣にコーヒーの魅力の事を伝えていたので引き続き来年再来年も開いてほしい。
- ・道路に絵をかける非日常感が楽しかったです。
- ・コーヒーの試飲から落書き、本など、普段あまりできない体験ができた。
- ・コーヒーの試飲をきっかけに自分の好みや、神保町のことを知ることができてよかった。
- ・このあたりは住民が少ないですが、区内に通われている学生さんが若いパワーで盛り上げてくださることはありがたく思います。
- ・普段と違う路地利用が良いと思いました。
- ・皆さん明るく親切に笑顔で接してくれて誠実さを感じられた。
- ・学生が前面で運営して、関係者が見守っている様子が、学生の自主性を感じます。また道路を使ってのイベントは、「通りかかったから」「なんとなく覗いてみる」機敏さが良いです。路上にホットカーペットは普段なら到底できない見られない風景でよいです。

《 どちらかというと思う 》

- ・ホットカーペットで足は温まったが、手が寒く感じた為、手元にそういった物があると良いのかなと思いました。

《来場者アンケート》

方法：グーグルフォームおよび紙を利用した無記名方式

対象者数：66名(WEB36名、紙30名)

※コーヒー診断参加者数131名を母数とした場合、回答率50%

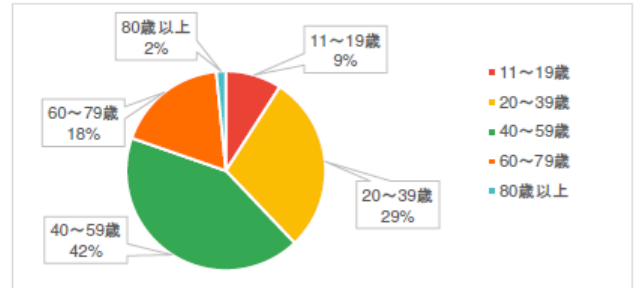
本イベントは来場者数の総計をカウントしていないため、今回複数実施したイベントの中で、参加者が最多数であったコーヒー診断参加者数131名を母数とした。

回答者属性：

(年齢)

Q.2 あなたの年齢は？

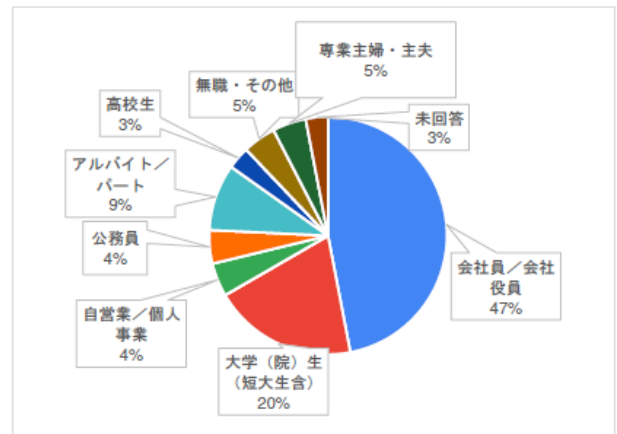
10歳以下	0
11～19歳	6
20～39歳	19
40～59歳	28
60～79歳	12
80歳以上	1
合計	66



(職業)

Q.3 あなたの職業等は？

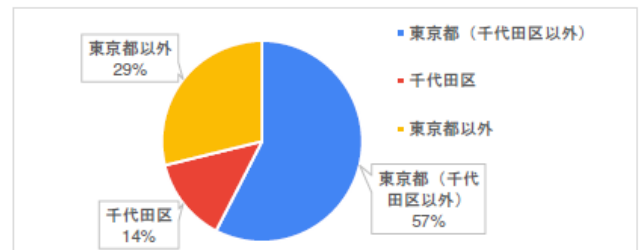
会社員／会社役員	31
大学(院)生(短大生含)	13
中学生	0
自営業／個人事業	3
公務員	3
アルバイト／パート	6
高校生	2
小学生	0
無職・その他	3
専業主婦・主夫	3
未回答	2
合計	66



(住まい)

Q.4 あなたのお住まいは？

東京都(千代田区以外)	38
千代田区	9
東京都以外	19
合計	66



(2) 「学生の地域の課題解決への学びの機会の創出」

本活動では、区内にキャンパスを有する大学・短期大学として、所属学生が千代田区の課題や歴史・文化といった地域資源への理解を深めることも重要な目的として位置づけた。

企画・運営に参加した学生を対象に実施した事後アンケート（回答者 14 名）では、92.8%の学生が「地域（千代田区または神保町）の特徴や良いところを知ることができた」と回答している。これにより、学生が地域を知り、地域課題について主体的に考える機会を創出することができ、教育的な観点からも意義のある取り組みとなった。なお、企画・運営に参加した学生に実施したアンケートにおいて、以下の回答結果が得られた。

《参加学生アンケート》

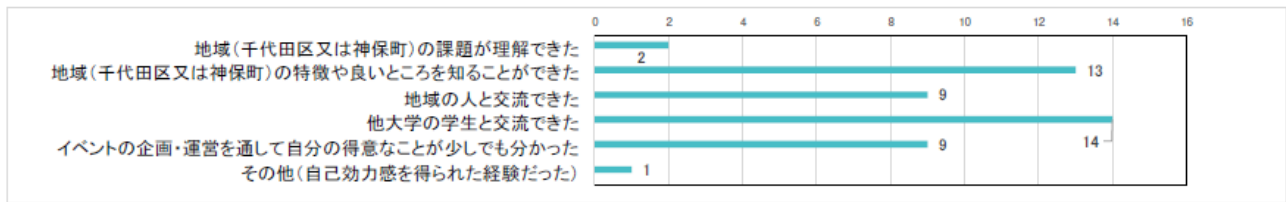
- ・ 方法： Googleフォームを利用した記名方式
- ・ 回答者数： 14 名

- ① 「今回のプログラムを通して得られたこと」 ※複数選択可
- ・地域（千代田区又は神保町）の特徴や良いところを知ることができた 【92.8%】
 - ・他大学の学生と交流できた 【100%】
 - ・地域の人と交流できた 【64.2%】
 - ・イベントの企画・運営を通して自分の得意なことが少しでも分かった 【64.2%】
 - ・地域（千代田区又は神保町）の課題が理解できた 【14.2%】
- ② 「千代田区の見取り図や神保町のまちをもっと深く知りたい」 【100%】
- ③ 「ウォークアブルなまちづくりのきっかけづくりに寄与したと思う」 【100%】
- ※②③は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」の合計。

※①

Q.6 今回のプログラムを通してどのようなことが得られましたか？※複数選択可

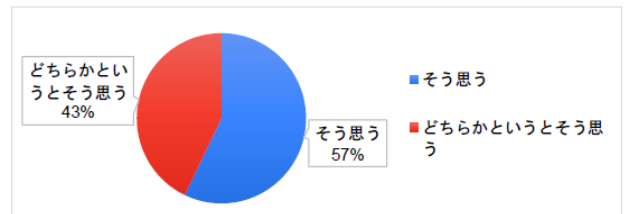
地域(千代田区又は神保町)の課題が理解できた	2
地域(千代田区又は神保町)の特徴や良いところを知ることができた	13
地域の人と交流できた	9
他大学の学生と交流できた	14
イベントの企画・運営を通して自分の得意なことが少しでも分かった	9
その他(自己効力感を得られた経験だった)	1



※②

Q.7 今回の活動に参加して、千代田区の見取り図や神保町のまちをもっと深く知りたいと思いますか。

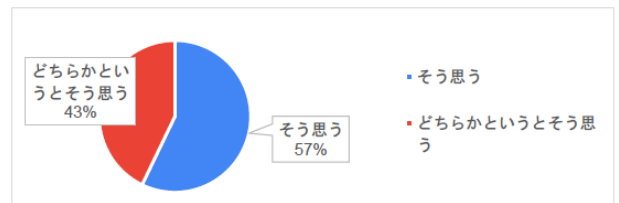
そう思う	8
どちらかと言うとそう思う	6
どちらとも言えない	0
どちらかと言うとそう思わない	0
そう思わない	0
合計	14



※③

Q.8 今回の自身の活動が、千代田区が期待する区のウォークアブルなまちづくりのきっかけづくりに寄与したと思いますか。
※「神保町ワクワク魅力新発見」は、パブリック空間などを活用した千代田区 の「ウォークアブルなまちづくりの活動」として実施しました。

そう思う	8
どちらかと言うとそう思う	6
どちらとも言えない	0
どちらかと言うとそう思わない	0
そう思わない	0
合計	14



アンケートの自由記述では以下のコメントが得られた。 ※抜粋転記

- ・チームのメンバーと協力しながら作業ができ、自分自身も来場者の方とコミュニケーションがとれた。
- ・自分たちで企画を考え、実際にイベントを開くといった経験は中々出来ないため、とても貴重な機会であ

った。そして、他大学の学生ともたくさん交流し、楽しく活動することができた。

- ・3ヶ月の間、あまり知らない分野の活動をチームで行うことができ、刺激的だった。学部を問わず、様々な属性の学生が楽しく地域に協力することができる、よいプログラムだと思う。
- ・他大学の学生と交流する機会が少ないなか、同じ目標を持ってプロジェクトに取り組み、楽しかったし、活動する中で自分の長所や短所を見つけることができ、とても勉強になった。

② 活動を進める上での課題や苦労したこと

○準備期間の確保

本事業は学生主体での活動であるため、授業や学業が優先となり、準備段階において継続的に参加できない学生が生じた。その結果、イベント直前の限られた期間で集中的に準備を進める必要があり、スケジュール調整に苦慮した。

○学生中心の運営

学生を複数のグループに分け、各グループ内で引継ぎを行う体制を整えることで、多くの学生が主体的に関わることができた。一方で、アンケート結果からは、グループ単位にとどまらず、全体の運営にも関わりたいという意見が見られた。今後は、全体運営に参画できる仕組みや、より発展的な関わり方を用意することが課題である。

○飲食物の提供に関する調整

コーヒー提供に際して、保健所申請に関するノウハウに乏しく、関連手続き・準備に一定の時間と対応を要した。

○当日の集客

会場が大通りから一本入った場所に位置していたため、事前周知以外に、当日の通行者による自然な集客が課題となった。当日は大通り側で学生によるビラ配布を行い、一定の来場者獲得につながったが、今後は通りがかりの方にもより訴求できる集客方法について検討が必要である。

○雨天・荒天時の対応

雨天・荒天時には縮小実施または中止を想定していたが、代替日の設定が難しい状況であった。そのため、雨天時であっても実施可能な方法や、会場配置の工夫について、事前に検討しておく必要があった。

③：①や②を踏まえた今後の活動に向けた方針

○継続的な実施

本企画は、区内で学ぶ学生目線による滞留空間の創出および学生の学びの機会の創出を目的として実施し、来場者および参加学生へのアンケート結果から、一定の成果を得ることができたと考えている。一方で、来場者や参画学生は限られた人数・範囲にとどまっていることから、今後は継続的な実施を通じて取組みの認知拡大を図るとともに、ウォークアブルな活動を含め、より多くの人が参加・体験できる効果的な取組みへと発展させていきたい。

○回遊・滞留の取組みの連携・連動

千代田区内では、回遊性や滞留の創出を目的とした様々なイベント・取組みが行われている。今後は、こうした既存の取組みと本活動との連携・連動を図ることで、点としての実施にとどまらず、面的な広がりを持つ取組みとなるよう検討していきたい。

○地域との連携

今回の活動では、地域住民や事業者との連携が限定的であったことから、今後は学生と地域が協働・共創する視点をより積極的に取り入れていきたい。地域のニーズや知見を踏まえた企画・運営を行うことで、地域コミュニティのさらなる活性化と、学生にとっての実践的な学びの場の充実を目指す。